

## 特集

## 事業における「協同」の多様性に学ぶ

地域の抱える様々な課題が深刻化する中で、生協はそれらと向き合い、解決する主体として一定の期待を集めてきた。買物難民やフードデザート、地域の高齢者の見守りや子育て支援、あるいはコミュニティの維持といったように、その課題は多様であり、解決に向けた実践もまた多岐にわたる。

他方で、そうした地域の課題解決という視角からは、ともすればコミュニティ的な活動や機能ばかりに光が当たり、土台となるべき事業への関心が相対的に弱くなってしまいかねない。生協にとって事業と活動は不可欠な両輪であり、地域の課題に対して事業としてどう向き合うかは、避けては通れない問いである。

そして、そうした事業を通じて地域に

おける課題と向き合っているのは、何も生協だけではない。生協とは異なるアプローチ、異なる資源、異なる理念のもと、地域の抱える課題と向き合ってきた企業や協同組合は少なからず存在する。

本号ではそうした企業や協同組合を取り上げて、事業を通じた地域貢献の在り方を紹介したい。取り上げるどの事例も、決して自分たちだけで何かを為そうとはしていない。他の企業や事業者、行政、団体などと手を結び、多様な「協同」をもって地域の課題を乗り越えようとしている。そうした「協同」の多様性から、それぞれの生協が事業として何を為そうかを考えてもらいたい。

(本誌編集委員 加賀美太記)

1. 地域の「人」のために移動販売ができること  
～有限会社 安達商事(あいきょう)の取り組み(岩橋 涼)
2. 地域におけるYショップの役割～過疎地域でのJAとの取り組み(竹野 豊)
3. 地域内循環型サプライチェーンと地域貢献  
～セコマグループの取り組みを事例に(今野 聖士)
4. 職域生協における地域経済への貢献～三菱マテリアル直島生活協同組合(加賀美 太記)